

平成 22 年 6 月 1 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2009

課題番号：19520717

研究課題名（和文） 20世紀前半に日本人が収集した中国民具についての文化人類学的研究

研究課題名（英文） An Anthropological Study of the Chinese Folk-crafts Collected by the Japanese in the First Half of the Twentieth Century

研究代表者

芹澤 知広（SERIZAWA SATOHIRO）

奈良大学・社会学部・准教授

研究者番号：60299162

研究成果の概要（和文）：日本各地の博物館に収蔵されている、20世紀前半に日本人が中国から持ち帰った中国の生活用品・民間工芸品について、共同調査を行った。その作業を通じて、どのような品物が現在残されているのかということがわかり、また多くの博物館が、それらの収蔵品について館内データベース等を通じて積極的に公開していることもわかった。その調査を踏まえ、研究代表者と研究分担者は個々の関心に基づき、対象を絞った事例研究を行った。

研究成果の概要（英文）：We examined the collections of the Chinese-Folk crafts in several Japanese museums, that were collected by the Japanese in the first half of the twentieth century. Many of the museums prepare the database for the public use today. Based on the collaborate research on the collections, each member conducted a case study of a particular topic of the objects.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009年度	400,000	120,000	520,000
年度			
年度			
総計	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：物質文化研究

## 1. 研究開始当初の背景

日本が明治維新以降、1945年の敗戦までに行った近隣諸国への進出に関わって、文化にまつわる課題が多く残されていることは、今日ますます明らかとなってきている。文化人類学内部では、植民地主義と文化の問題に注目する研究の流行に関わって、日本の旧植

民地と文化人類学との関係についての歴史的研究が盛んになっている。また、現実の社会・政治的状况に即しては、日本植民地時代の文化遺産についての保存と破壊、戦時に略奪した文化財の返還にまつわる出来事が多く報道されている。しかしながら、このような近年の課題との関わりのなかで、文化人類

学の特徴である民族誌資料の収集・保存・研究を、積極的に社会に生かそうとするような前向きな研究が今日本で行われているとは言い難い。

## 2. 研究の目的

19世紀後半から20世紀前半、日本の帝国主義的拡張の時代に、専門的な人類学者が行ったことの多くが取り上げられるようになってきている。しかし、日本の文化人類学の特徴として、確固とした学問分野として制度化されること、及びその成果が政策と直接結びつくことが、他の学問分野と比べて、それほど強くは行われてこなかったという点にも注意をすべきである。そのため、民族誌資料としての物質文化の収集・研究にとって、今日の国立民族学博物館につながるコレクションが重要であることは論をまたないが、このほか民間の研究機関・博物館、さらにはアマチュア研究者やコレクターなどへと対象を広げて、その歴史を研究すべきである。この歴史的背景を踏まえ、これら民間のコレクター・コレクションと、アジア諸国の研究者・研究との接点と応用可能性を見つけていくことが、本研究の目的になる。

## 3. 研究の方法

1年目と2年目を通じて、人類学者と考古学者、博物館学者が、協力しながら日本各地で興味深い中国民具のコレクションをもつ博物館を訪れ、その収蔵品についての共同調査を行った。また共同調査を踏まえ、研究代表者と研究分担者は、それぞれ特定の物質文化研究の関心にしたがって話題を選び、事例研究を行った。

## 4. 研究成果

調査を行った16の博物館（個人蔵のコレクションを含む）に関して、収蔵状況、研究状況、公開状況が明らかとなった。また、その調査と平行して行われた文献研究も通じて、20世紀前半の日本人の中国民具収集をもたらした、民間の人類学的研究、「支那趣味」そして「民藝運動」などの歴史的背景が明らかとなった。個々の事例研究の成果については、1年目に論文集を編集して公刊し、その後、2年目には韓国研究など隣接する分野の研究者を5名招いたワークショップを行い、研究を深めた。3年目には、研究代表者が韓国・大田市で行われた国際会議にて英語の分科会を組織し、また香港大学で行われた国際会議にて中国語の分科会を組織した。研究代表者は両方で、また研究分担者はどちらかの会議で研究成果を発表し、海外への発信を試みた。どちらの分科会にも複数の外国人研究者からの質問があり、本研究に対して海外からも高い関心がもたれていることをうかが

うことができた。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計14件)

角南聡一郎「日本人による宋胡録収集 - 宋胡録人形の記述分析を中心として - 」『博物館学芸員課程年報Musa』、査読有、24、2010、pp.9-18.

角南聡一郎「物質文化に問いかけその学史に学ぶ意味」『民博通信』、査読有、128、2010、pp.14-15.

角南聡一郎、河合洋尚訳「梅州地区近当代墳墓の情況 - 従日本、台湾の比較視点」『客家研究輯刊』、査読有、32、2008、pp.161-170.

芹澤知広「奈良の林神社、および饅頭と素麺の伝来について」『麺の世界』、査読無、14、2008、pp.26-34.

〔学会発表〕(計20件)

芹澤知広「日本人眼内的中国招牌」、The Fifth Annual Conference of The Asian Studies Association of Hong Kong、January、2010.

志賀市子「香港族群中自我 / 他者表徴的互動和重建：以海陸豊人為個案」、The Fifth Annual Conference of The Asian Studies Association of Hong Kong、January、2010.

植林啓介「中国文化形成上の統一性と多様性：農業・食物・烹調器具」、The Fifth Annual Conference of The Asian Studies Association of Hong Kong、January、2010.

Soichiro Sunami「Education of Fine Arts and Study of Material Culture in Early Modern Japan」、International Convention of Asian Scholars 6、August、2009.

Norihito Nakao「Folk Toys in Manchuria Collected by the Japanese」、International Convention of Asian Scholars 6、August、2009.

Satohiro Serizawa「Chinese Signboards Seen through the Eyes of the Japanese」、International Convention of Asian Scholars 6、August、2009.

〔図書〕(計1件)

芹澤知広・志賀市子編『日本人の中国民具

収集 - 歴史的背景と今日的意義』風響社、  
2008年3月、208頁。

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

取得状況（計0件）

〔その他〕

ホームページ等

とくになし。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

芹澤 知広 (SERIZAWA, SATOHIRO)

奈良大学・社会学部・准教授

研究者番号：60299162

### (2) 研究分担者

志賀 市子 (SHIGA, ICHIKO)

茨城キリスト教大学・文学部・教授

研究者番号：20295629

角南 聡一郎 (SUNAMI, SOICHIRO)

(財)元興寺文化財研究所・研究部・

主任研究員

研究者番号：50321948

槇林 啓介 (MAKIBAYASHI, KEISUKE)

総合地球環境学研究所・研究部・

上級研究員

研究者番号：50403621

中尾 徳仁 (NAKAO, NORIHITO)

天理大学・附属天理参考館・学芸員

研究者番号：10441437

### (3) 連携研究者

なし